



大学評価制度の新段階

- 有為な人材の育成のために好循環サイクルの構築を -

2013年4月3日

公益社団法人 経済同友会

目 次

はじめに：大学評価制度改革の必要性	・ ・ ・ ・ ・ 1
1．大学評価制度の現状と問題点	・ ・ ・ ・ ・ 4
(1) 「評価」の重層的構造と概念の混乱	
(2) ステークホルダーへの説明責任の不徹底	
(3) 改革サイクル(P D C A) への活用が不十分	
(4) 「評価疲れ」の常態化と教育・研究への悪影響の発生	
2．大学評価制度のあり方	・ ・ ・ ・ ・ 9
(1) 企業が受ける評価と大学が受ける評価との比較	
(2) 大学評価制度のあり方	
3．大学評価制度改革の具体的方向性	・ ・ ・ ・ ・ 13
(1) 情報公開の徹底	
(2) 大学ごとのビジョン(将来像) の明確化	
(3) 内部質保証(改革サイクル[P D C A]) 重視へ	
(4) 評価サイクルの短縮化・弾力化	
(5) 評価の効率化・簡素化	
おわりに：大学の情報整備・情報公開の重要性と求められる意識改革	・ ・ ・ ・ ・ 19

はじめに：大学評価制度改革の必要性

わが国の経済社会は今、グローバル化の流れを受けて新興国の台頭による国際競争の激化、少子高齢化の進展や東日本大震災という国難に直面するなど、大きな変化のなかにある。今後もわが国が持続的に発展するためには、これらの山積した課題を解決し、経済社会の変革を担える人材の育成が不可欠であることは論を俟たない。こうした環境変化に伴って人材を輩出する大学の使命は大きく変化し、その役割は一層重要度を増している。

大学は、急激なグローバル化への対応に迫られるなど、改革はまさに待ったなしの状況であり、大学のみならず政府・企業他ステークホルダー全員、即ち社会全体が一丸となり着実に実行することが求められている。大学改革の方向性は、長年の議論を踏まえ、文部科学省において「大学改革実行プラン」¹としてまとめられ、明確化されてきたところである。

「大学改革実行プラン」の内容は多岐に渡るが、大学改革の成否は、改革サイクル(PDCA)を、如何に有効に機能させることができるかにかかっている。個々の大学がビジョン(将来像)を明確化・具体化(P)し、実践(D)をチェック(C)してフィードバックを機能させ、次のアクション(A)に結びつけなければ、改革は覚束ない。

2011年度は、大学教育改革を実現するための「大学ガバナンスのあるべき姿」について提言を行ったが、2012年度は大学教育改革の改革サイクル(PDCA)自体が有効に機能しているかについて、外部からチェックして改革の実現を目指していく点に着目し、「大学評価制度」について議論を重ねてきた。

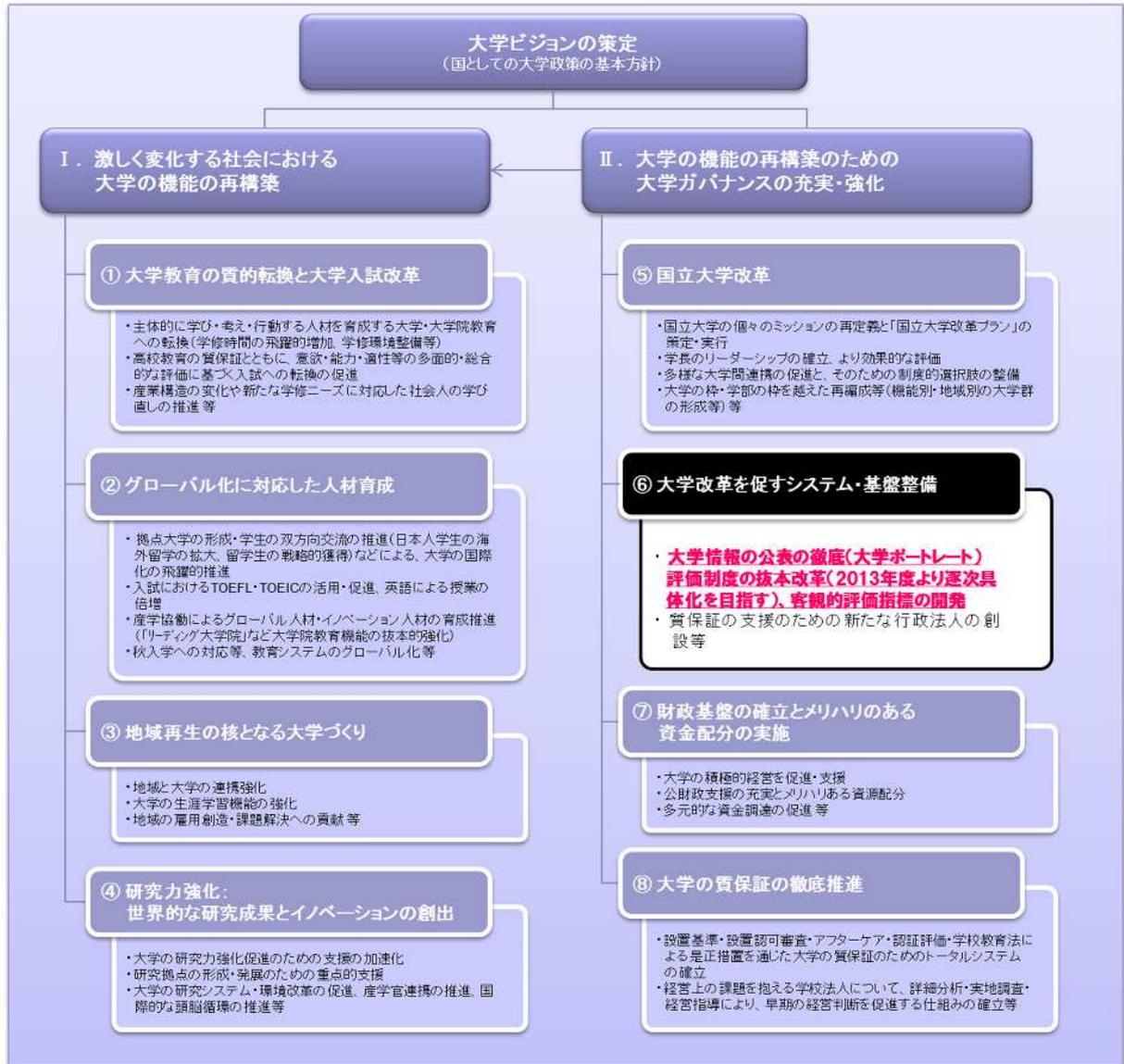
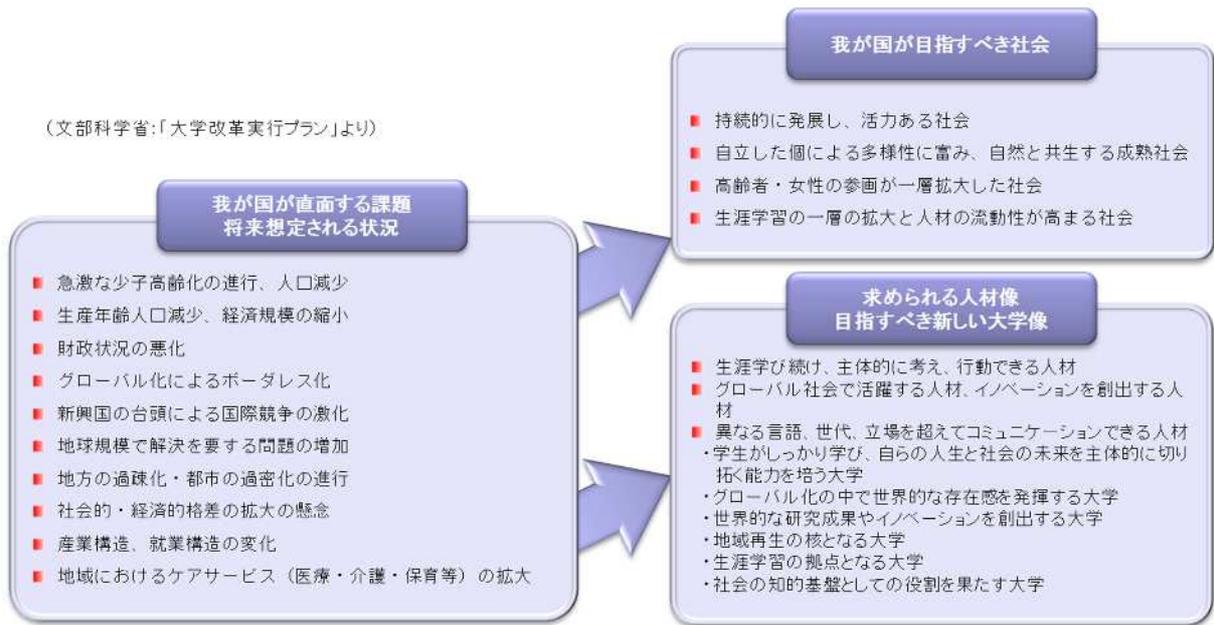
また、「大学改革実行プラン」においても、大学改革を促すシステム・基盤整備の一環として「評価制度の抜本改革」が盛り込まれ、2013年度から逐次具体化を目指し中央教育審議会等で検討することとされている。

われわれはこうした情勢を踏まえ、前向きな大学間競争が生じ、大学教育全体の質の向上が図られることを期待して、「大学評価制度」について提言を行う。

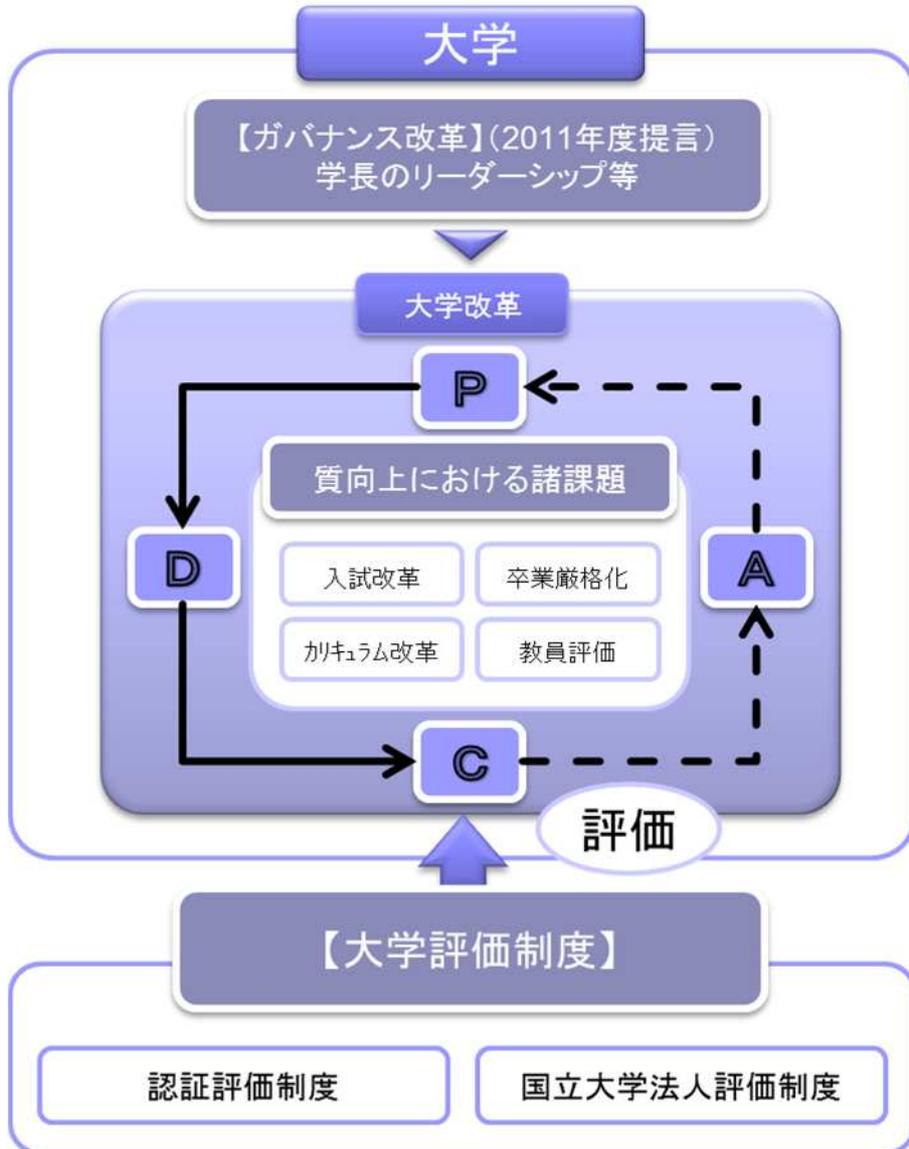
¹ 2012年6月に文部科学省がまとめた2017年度までに進める大学改革の工程表。国としての「大学ビジョン」の策定、大学の機能の再構築とそのため大学のガバナンスの充実・強化が盛り込まれている。

【大学改革実行プランの全体像】

(文部科学省:「大学改革実行プラン」より)



【大学改革の改革サイクル（P D C A）と大学評価制度】



1. 大学評価制度の現状と問題点

(1) 「評価」の重層的構造と概念の混乱

大学に対する公的な第三者評価制度としては、大学の自己点検・評価を前提とした「認証評価制度」、「国立大学法人評価制度」が存在する。「認証評価制度」は、大学の設置基準や設置認可等の事前チェックから事後チェックへの規制改革の流れの中で、「国立大学法人評価制度」は、国立大学の法人化の中でそれぞれ制度化された経緯がある。

こうした公的な第三者評価制度は、いずれも「評価」を冠してはいるものの、それぞれ「評価」の概念が異なっている。「認証評価制度」は法令適合性など最低基準の確認（適格認定）が中心であり、「国立大学法人評価制度」は、独立行政法人と同様、中期目標期間ごとの目標達成状況の確認、達成度の評価が中心となっている。いずれも大学教育の成果を評価する機能としては不十分であり、また、教育関係者以外には分かりにくい内容となっている。

特に全ての大学が対象となっている「認証評価制度」については、最低基準の確認が中心であることから、個別の基準に照らせば要改善事項の指摘はあるものの、評価結果の殆どが、「適合」等とされており（7ページご参照）、国民の大学に対する評価の実感と乖離していると言わざるを得ない。

また、国内外において民間による大学ランキング²等の大学評価活動が存在するが、研究者の主観的評価等を主な根拠にしているケースも見受けられ、大学教育の成果を端的に評価しているとは言えない。さらに、上記以外に、「評価」という用語こそ使われていないが、科学研究費補助金等の競争的補助金を通じた大学への資金配分があり、これも実質的な評価活動として機能している。

このように「評価」は重層的に存在し、かつ、用語と概念の混乱もあって、どの評価をどう活用すべきか一律ではないため、一般には分かりにくい。したが

² 英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）」が発表する世界の大学ランキングが有名。上位200校に入った我が国の大学は5校（東大27位、京大54位、東工大128位、東北大137位、阪大147位）。研究者や企業の評価、論文の引用回数、学生一人あたり職員数等の指標で評価。上位10校は米英が独占。

って、大学の教育研究の改善はもとより、学生・保護者・企業等のステークホルダーが、評価結果を判断材料として明確に活用できるよう改定が必要である。

(2) ステークホルダーへの説明責任の不徹底

公的な第三者評価制度については、評価結果は公表されているものの、大学教育の成果を評価する機能が不十分なこともあり、学生・保護者・企業等のステークホルダーの多くには、認識も参照もされていない。また、情報公開に消極的な大学もあり、概して大学とステークホルダーとの情報の非対称性は依然大きく、大学が説明責任を十分に果たしているとはいえない。2011年に一部の情報については各大学のホームページ等において公開が義務付けられたが、教育の成果を示す情報の公開は、依然不十分な状況にある。

文部科学省の「大学改革実行プラン」において、「大学情報の公表の徹底」が盛り込まれており、国公立を通じた教育情報の活用・公表のための共通基盤として「大学ポートレート(仮称)」³の整備が準備委員会にて検討されているが、「大学ポートレート(仮称)」への参加・不参加は各大学の任意という前提であり、このままでは十分な情報公開の進展は期待できない。

このように種々の評価制度は存在するが、いずれも、ステークホルダーが、教育の成果により大学を評価する判断材料として十分ではないために、入学偏差値と評判に頼らざるを得ないという事態が続いていることから、改善を強く求めたい。

(3) 改革サイクル(PDCA)への活用が不十分

「認証評価」、「国立大学法人評価」とも評価実施は一巡したが、評価の目的が大学構成員間で理解されていない、また、法的に義務化されたことにより、義務感と強制感に支配され、大学教育の改革サイクル(PDCA)を適切に機能させるために活用されていないという問題点が指摘されている。

評価結果が改革サイクル(PDCA)に活用されなければ、評価の意義は希薄になる。また、大学全体のビジョン(将来像)とそれに向けた改革の方向性が、

³ データベースを用いた教育情報の活用・公表のための共通的な仕組み。「大学ポートレート(仮称)準備委員会」にて公表すべき情報の範囲や公表の形式等を検討中。

大学構成員全体で共有されなければ、評価の目的への理解と、積極的な評価結果の活用は進展が難しい。

(4) 「評価疲れ」の常態化と教育・研究への悪影響の発生

評価の準備には膨大な時間と手間が掛かっており、いわゆる「評価疲れ」という状況が常態化している。大学の本業である教育・研究にも悪影響が発生していることから、その効率化が必要である。

【大学の設置形態と大学に関する「評価」の概観】

大学種別	学校教育法に基づく自己点検・評価及び認証評価				国立大学法人法に基づく国立大学法人評価	その他の第三者評価 (JABEE等)
	自己点検・評価	認証評価	専門職大学院の認証評価			
				うち法科大学院の適格認定		
国立大学	必須、時期の定め無し (当該大学の教育・研究・組織・運営・施設・設備)	必須 7年に1度 (機関別)	専門職大学院を持つ大学は必須 5年に1度 (分野別)	法科大学院を持つ大学は必須 5年に1度 (分野別)	必須 6年に1度 (法人評価)	任意
公私立大学					不要	

文部科学省平成23年度先導的の大学改革推進委託事業シンポジウム 「大学における教育活動の評価をどうとらえるか」 田中弥生准教授 (大学評価・学位授与機構) 発表資料より

認証評価制度	国立大学法人評価制度
<p>○概要</p> <p>国私公の全ての大学、短期大学、高等専門学校が、定期的に文部科学大臣の認証を受けた評価機関 (認証評価機関) による評価 (認証評価) を受ける制度。</p> <p>○評価サイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、短期大学、高等専門学校は7年以内ごと ・ 専門職大学院は、5年以内ごと <p>○認証評価機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学3機関 (大学基準協会、大学評価・学位授与機構、日本高等教育評価機構)、短大4機関、高等専門学校1機関 ・ 専門職大学院12機関 <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学等が認証評価機関を選択 (複数可)。 ・ 評価基準は各認証評価機関で定める。 ・ 評価の方法は、大学等の自己点検・評価の結果分析、及び教育研究活動等の状況について実地調査 ・ 専門職大学院しかない大学は5年ごとの評価、7年ごと評価の両方を受ける必要有り。 <p>○評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3段階評価 (例: 適合・不適合・保留) 	<p>○概要</p> <p>「国立大学法人評価委員会」が国立大学法人及び大学共同利用機関法人 (研究所等) の業務の実績について、評価を行う制度。</p> <p>○評価内容と評価サイクル</p> <p>(1) 年度評価: 毎事業年度</p> <p>中期目標・中期計画の達成に向けた年度計画の進捗状況等を調査分析し、法人の業務運営・財務内容等について評価。</p> <p>(2) 中期目標期間評価: 6年毎</p> <p>① 「国立大学法人評価委員会」の評価</p> <p>各法人の自己点検・評価に基づき、中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を分析し、法人の業務運営・財務内容等について評価。</p> <p>② 「大学評価・学位授与機構」の評価</p> <p>教育研究の状況については、大学評価・学位授与機構に評価の実施を要請し、結果を尊重する。</p> <p>教育研究に係る中期目標の達成度及び学部・研究科等の教育研究の水準及び質の向上度について評価を行う。</p> <p>○評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5段階評価 (中期目標・中期計画の達成に対して)

【認証評価結果（2011年度）の概況】

2011年度に実施された計86校のうち、殆どが「適合」「基準を満たしている」「認定」「適格」等となっており、「不適合」は1校のみとなっている。何れの認証評価機関も、判定の種類は2～3種類となっている。

教育機関	認証評価機関	評価結果		校数
大学	大学基準協会	適合		27
		期限付適合		3
		適合	20年度の再評価	5
	大学評価・学位授与機構	基準を満たしている		7
	日本高等教育評価機構	認定		8
		認定	条件あり	5
		認定	再評価	3
小計				58
短期大学	大学基準協会	適合		1
	短期大学基準協会	適格	22年度の再評価	3
小計				4
高等専門学校	大学評価・学位授与機構	基準を満たしている		6
小計				6
専門職大学院	大学基準協会	適合		2
		適合	追評価(21年度)	1
		不適合	追評価(20年度)	1
	大学評価・学位授与機構	適合		1
	日弁連法務研究財団	適合		1
	日本臨床心理士資格認定協会	適合		3
	教員養成評価機構	適合		9
小計				18
合計				86

認証評価機関	主たる評価対象	判定の種類
大学基準協会	私立大学・公立大学	①適合 ②不適合 ③保留
大学評価・学位授与機構	国立大学・公立大学	①基準を満たしている ②基準を満たしていない
日本高等教育評価機構	私立大学	①認定 ②保留 ③不認定
短期大学基準協会	短期大学	①適格 ②保留 ③不適格

【認証評価制度の問題点】(出所：大学基準協会[認証評価機関])

(第1期[2004年～2010年]認証評価実施から見てきた問題点)

自己点検の評価結果、抽出された問題点をどのように改善していくかその道筋(改善のための方策)が示されていない

改善のためのフィードバック体制が不十分

自己点検・評価結果を改革に結び付ける体制が不十分

自己点検・評価体制が十分機能しておらず、自己点検評価が恒常的に行われていない

自己点検・評価の組織運営が一部の役職者のみで実施されている

自己点検・評価の組織が部局単位で縦割りに設置され大学全体の視点で自己点検・評価する体制がとられていない

部局間で自己点検・評価の内容・充実度に温度差がある

報告書の記述を裏付けるエビデンスが示されていない

大学院研究科に対する自己点検・評価が不十分である

これまで自己点検・評価を公表してこなかった

自己点検・評価に関する規程に不備がある



要約すると

- (1) 自己点検・評価の目的が大学構成員間で理解されていない
- (2) 自己点検・評価は大学の自主性・自律性に基づいて大学教育の改善のために行われるべきなのに、法的に義務化されたことにより、義務感と強制感に支配されている
- (3) 大学及び認証評価機関の作業負担軽減が必要

(出典) 工藤潤「大学基準協会が実施する新大学評価システム」『大学評価研究』第9号 2010年9月

2. 大学評価制度のあり方

(1) 企業が受ける評価と大学が受ける評価との比較

大学評価制度のあり方を考える際に、まず、企業が外部から受けている評価との比較について述べる。

(企業が受ける評価)

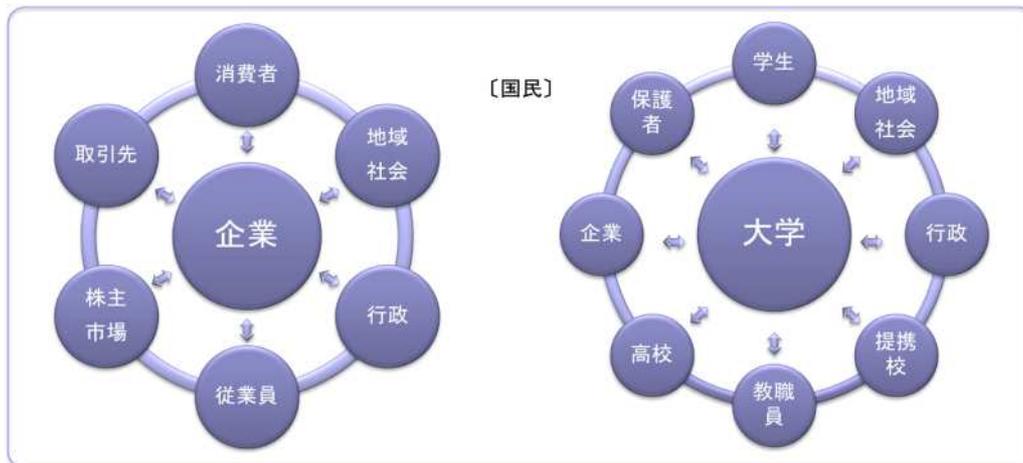
企業には、大学以上に多種多様な業種・業態が存在するが、各社とも個々のステークホルダーから常にチェックを受けている。商品・サービス等について、消費者や取引先による厳しい選別に応えるために積極的かつ正確な情報発信を行っている。また、民間メディアも各社の提供する商品・サービスの価値について比較し、様々な角度から評価結果を広く発信しており、企業ではこうした評価も含めて様々なフィードバックに基づきマーケティングや商品・サービスの開発を行っている。

また、株式公開企業等については、投資家保護の観点から、有価証券報告書の公表、決算を含む各種情報を適時開示することで、日々株主・市場からの評価を受けている。併せて、株価等に大きな影響力を持つ格付機関からの評価に対しても適切な説明が求められている。

更に、消費者や取引先はもとより、地域社会・行政・従業員を含めたステークホルダー全体との調和が、企業の持続的発展にとって増々重要になっている。

ステークホルダーに対して、現状認識を明確にしたうえで、その対応等も含めて徹底した情報公開を行い、それを受けて各評価主体が様々な切り口で情報を加工し、比較することを通じて厳しい競争に晒されることで、企業の改善・改革が促されるという循環が形成されている。

【企業と大学のステークホルダー】



(大学が受ける評価)

現行の公的な大学評価制度は、前述の通り、大学のサービスである教育の成果を評価する制度とはなっていない。

教育の成果自体が、消費者である学生・保護者・企業等ステークホルダーにとって分かりにくい上、全般的に大学からの情報公開が不十分であるために、ステークホルダーが、大学を評価する判断材料として、各大学の教育の成果ではなく、入学偏差値や評判に頼らざるを得ない状況は変わっていない。

教育の成果は、大学教育の多様化も相俟って複雑化しており、また、当の大学自体もそれを明確に把握できていない。その背景である体制面の問題として、IR⁴ (Institutional Research) 即ち、教育に関するデータ収集・蓄積、教育機能についての調査・分析がわが国の大学では殆ど未整備であり、学習成果等の有効なアウトカム (結果) 測定が進んでいない状況がある。

大学が、自らのサービスである教育の成果を明確化できない結果、自ら掲げるビジョン (将来像) と現状との乖離を捉え、何をどう改善すべきなのか把握できず、改革サイクル (P D C A) のスタートラインに立てない事態に陥っている。

⁴ データ収集・蓄積、特に教育機能についての調査・分析、大学経営の基礎となる情報・分析の提供をさす。アメリカの大学では一般化しており、近年我が国の大学でも関心が高まっている。

従って、認証評価制度も、法令適合性など最低基準の確認といった域を出ないため、教育の質向上に資する仕組みとしては機能していないのが実情である。

(2) 大学評価制度のあり方

社会の急激な変化に伴い、大学に求められる教育内容も多様化し、機能の再構築をする必要に迫られており、大学が機能別に分化⁵することが想定される中、画一的なランキングでは、多様な教育の成果を評価することはできない。世界的研究・教育拠点を志向する総合大学・研究大学と、高度専門職業人養成にリソースを集中する大学を、同一指標でランキングすることには意味がない。画一的な大学ランキングによる競争環境を強制することは、単に順位を上げるためのテクニカルな対応を促すことになりかねず、本来の目的である教育や研究の質を高めるための改革を促すことにはならない。

大学教育改革に資する大学評価制度は、情報公開と大学評価制度が、有機的に関連し補完しあう複合的なシステムの中で実現される。

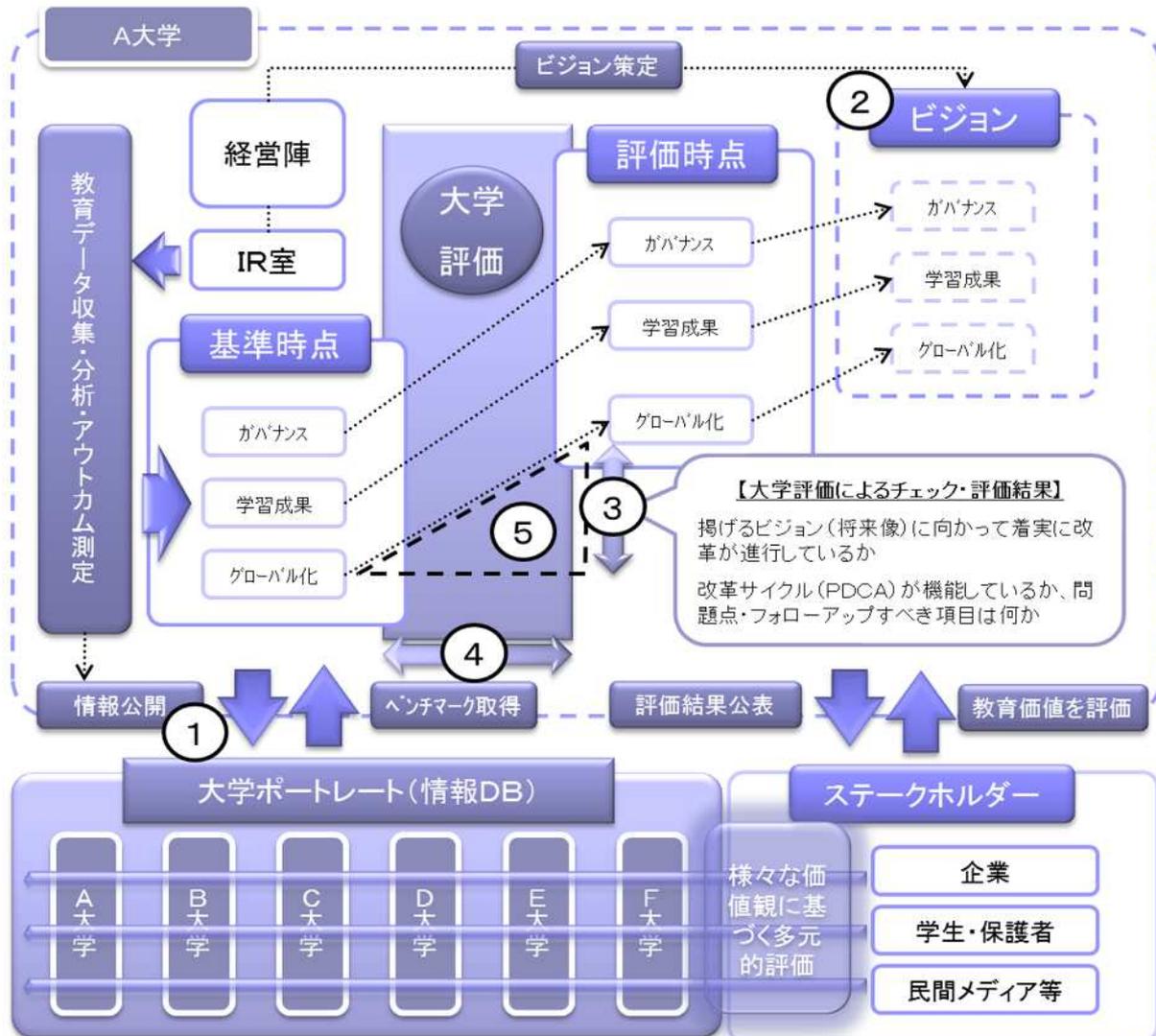
企業と大学の違いを踏まえる必要はあるが、まず、全大学が情報公開を徹底することで、各ステークホルダーが、それぞれの価値観や重視する評価項目により各大学の情報データを比較し、多元的な評価を容易に行うことを可能とする体制整備が必要である。

また、大学は建学の精神に基づき、自らのビジョン（将来像）を明確化・具体化し、情報公開を通じて公表するべきである。大学全体のビジョン（将来像）が、大学構成員全体で共有されることで、積極的な評価結果の活用が図られる。

大学評価制度は、法令適合性等最低基準の確認等から、各大学が掲げたビジョン（将来像）に向けて改革サイクル（P D C A）を着実に実行しているかを評価する方向に軸足を移すべきである。

⁵ 2005年の中教審答申「我が国の高等教育の将来像」は、各大学の個性と特色を明確化するため、7種類の機能別分化の方向性を提示。世界的研究・教育拠点 高度専門職業人養成 幅広い職業人養成 総合的教養教育 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究 地域の生涯学習機会の拠点 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

【大学評価制度のあり方】



- ① 情報公開の徹底⇒大学ポートレート
- ② 大学ごとのビジョン(将来像)の明確化
- ③ 内部質保証(改革サイクル[PDCA])重視へ
- ④ 評価サイクルの短縮化・弾力化
- ⑤ 評価の効率化・簡素化

○原則として「大学ポートレート」への参加を義務付け、非公開とする項目がある場合には、非公開である事実も併せて公表

○英米レベルの徹底した情報公開

○ステークホルダーの多元的評価を実現

○英語での公表も実施

○IR(Institutional Research)の推進

文部科学省によるバックアップ

3 . 大学評価制度改革の具体的方向性

(1) 情報公開の徹底

前述の通り、文部科学省の「大学改革実行プラン」においても、「大学情報の公表の徹底」が盛り込まれており、「大学ポートレート（仮称）」として公表する方向で準備委員会にて検討が進められている。「大学ポートレート（仮称）」の参加・不参加は各大学の任意という前提で検討が進んでいるが、原則として参加を義務付けるべきである。

また、大学によって、非公開とする項目がある場合には、非公開である事実も併せて公表し、情報公開に対する取組度合も比較可能にするとともに、公表開始可能時期についても明示すべきである。

イギリス、アメリカについては、1990年代以降⁶大学情報のデータベース化、情報公開がかなり進展し、2007年には両国において情報提供の仕組みが相次いで構築されている（15～16ページご参照）。一方でわが国の情報公開への動きは緩慢であったと言わざるを得ない。

情報公開に際しては、イギリス・アメリカレベルの徹底した情報公開を目指し、例えば卒業生進路の職種別データ等についても時系列データとして示されることによって、各大学の教育の成果が目指すビジョン（将来像）、改革の方向性と整合しているかを評価可能にすべきである。

また、各ステークホルダーが、それぞれに重視する項目で大学の情報データを容易に比較し、多角的な評価を可能とするとともに、ステークホルダーのニーズが高い項目、また、大学にとってもビジョン（将来像）実現に向けた改革を進める際に、ベンチマークとして有効活用できる項目が網羅的に公表されることが重要である。

情報公開に際しては、英語での公開も併せて行い、外国人留学生が容易に諸外国と比較できるよう発信に努めるべきである。グローバルな大学間競争に打ち

⁶ イギリスでは、1993年に英国高等教育統計機構（HESA）が設立された。アメリカでは、1991年から中等後教育総合データシステム（IPEDS）にて、個別大学に関する情報をデータベース化している。

勝ち、外国人留学生を増加させ「内なる国際化」を推進するためにも、国外への積極的な情報発信が不可欠である。

大学の情報公開が進展しない一因として、アメリカでは一般化しているIR（Institutional Research：教育に関するデータ収集・蓄積、教育機能についての調査・分析）が、体制面の問題もあり、わが国の大学では整備されていない実態がある。IRの充実については、大学による対外的な情報公開の面、大学内の教育改善の実践と調査結果の実践へのフィードバックを通じた改革サイクル（PDCA）への活用面、また、データに基づいた具体性のある中長期的なビジョン（将来像）策定の面からも極めて重要である。文部科学省は、IRの体制整備を積極的に推進すべきであり、IR及び情報公開に積極的な大学に対しては、運営費交付金、私学助成金等を通じた財政面でのバックアップを行うべきである。

【大学情報公開の国際比較（概要）】 詳細は巻末の参考資料ご参照

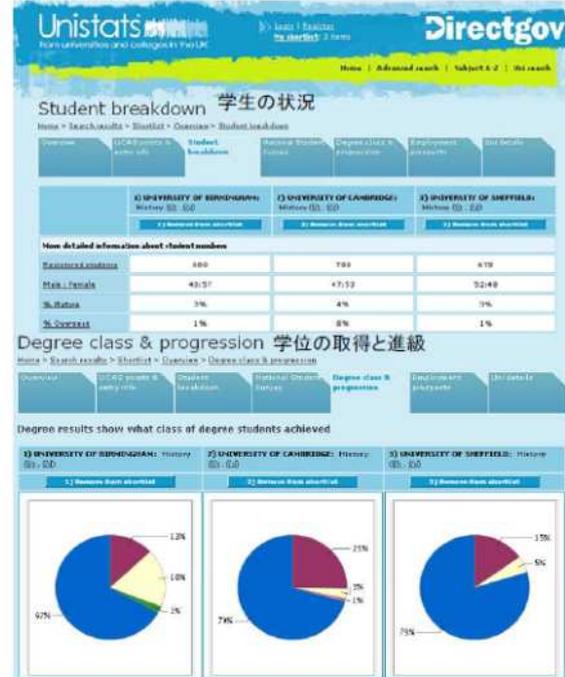
	日本	イギリス	アメリカ
統一的情報DB	無し (文部科学省が「大学ポータル」の整備を検討中)	【Unistats】 ⇒各大学が提供する教育コースごとの情報を一元的に発信 【全国学生調査(NSS)】 ⇒専攻に対する学生の満足度 【就職状況調査(DLHE)】 ⇒卒業後6ヶ月時点の調査 【KIS(Key Information Set)】 ⇒学生・社会に上記の集約情報等をより機能的・効果的に発信する仕組みで、Unistatsより情報比較が容易	【IPEDS(中等後教育総合データベースシステム)】 ⇒大学にデータ提出を事実上義務づけた連邦レベルでの大規模情報収集システム 【College Navigator】 ⇒全米の大学の情報を検索・表示可能。IPEDSや他の政府機関のデータを基に構築 【College Portrait】 ⇒州立大学の大学団体が共通フォーマットで大学情報を提供
情報公開内容	以下の公開を義務化。情報は各大学に散在 ①教育研究上の目的 ②教育研究上の基本組織 ③教員組織、教員数、教員の保有学位・業績 ④入学者数、在学者数、卒業生数、就職者数等 ⑤授業科目と内容、年間授業計画 ⑥学修成果の評価の基準、卒業認定基準 ⑦校舎等の施設・設備 ⑧授業料等大学が徴収する費用 ⑨学生の修学、進路選択、心身の健康への支援	【Unistats】 ①学生の入学時の情報(スコア分布、学位等の資格) ②学生の内訳 ③学生の満足度(教育、学習支援、環境、個人の発達) ④学位取得と進級 ⑤卒業後の就職状況 ⑥その他(機関評価へのリンク) 【KIS(Key Information Set)】 ①学生の満足度 ②コース情報 ③卒業生の就職先とサラリーのデータ(学閥分野別) ④宿舍経費 ⑤学費などの財務情報 ⑥学生自治組織の経費	【IPEDS】 以下の領域に関する詳細なデータ ①機関 ②修了 ③12ヶ月の在籍者数 ④人的資源 ⑤在籍者 ⑥財務 ⑦学生への資金援助 ⑧卒業率 ⑨その他 【College Navigator】 ①概要(教員数など) ②授業料等 ③経済的支援(奨学金や学生ローン) ④卒業までにかかる経費 ⑤在校生の構成(入学者数、性別、人種、年齢) ⑥入試状況(志願者、合格者、必要スコア) ⑦進級率・卒業率 ⑧分野ごとの学位授与状況 ⑨運動部活動(所属人数) ⑩第三者評価の結果 ⑪キャンパスの安全 ⑫教育ローンの債務不履行率 【College Portrait】 ①学生・家庭の情報(学生の特徴、学士課程における就学状況他) ②在学中の経歴 ③学生の学習成果
特徴	公開が義務化された情報項目はミニマム・リクワイアメントに留まり、データは各大学に散在しており、教育の質に関する情報に乏しい。	大学の戦略作りに資するベンチマークを意識した情報集約。学生・社会の大学選択に資する情報集約の仕組みが確立されている。	IPEDSは包括的なデータベースであり、専門的な面があるが、College PortraitやCollege Navigatorでは、学生・社会にとって有益な情報や学習成果に関する情報等も公表されている。

【イギリスの ” Unistats ” の概要】(出所：文部科学省)

英国では、大学への公財政の配分を担うHEFCEと大学入試手続を担うUCASが、各大学が提供する教育コース（学士課程と大学院）ごとの情報を一元的に提供する” Unistats” を構築・運営している。

- (1) 開始年：2007年
- (2) 参加大学：全大学
- (3) 運営：大学への公財政配分団体 (HEFCE) と大学入学手続を担う団体 (UCAS)
- (4) 情報の入力：高等教育統計局 (the Higher Education Statistics Agency (HESA))、統計情報の提供を担う団体 (the FE data service)、HEFCEの各大学関係の機関・団体と各大学で実施
- (5) 項目の内容：
 - 学生の入学時の情報
入学時のスコア分布/入学前に保有する学位等
 - 学生の内訳
学生数/学生の男女比/成人学生の割合
パートタイム学生の割合/留学生の割合
 - 学生の満足度
 - 学位取得と進級
学位取得者の状況（ファースト、セカンドほか）
 - 卒業後の就職状況
卒業6か月後の就職状況/進学・就職等の割合
 - その他 QAAによる機関評価へのリング
- (6) 表示の方法：三つのコースを選択し、項目ごとにグラフなどを用いて表示

<表示の例>

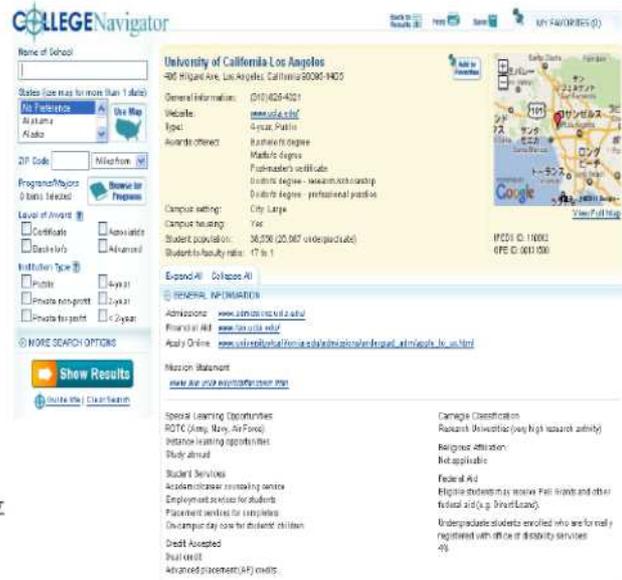


【アメリカ ” College Navigator ” の概要】(出所：文部科学省)

アメリカでは、連邦教育省の全米教育統計センターが、全米の大学の情報を検索・表示できる” College Navigator” を運営している。” College Navigator” は、全米の大学等を対象とした中等後教育総合データシステム (IPEDS) や、他の政府機関（連邦高等教育局、連邦学生支援局）のデータを基に構築されている。

- (1) 開始年：2007年
- (2) 参加大学：全大学
- (3) 運営：連邦教育省全米教育統計センター
- (4) 情報の入力：IPEDSや他の政府データシステム
- (5) 項目の内容：
 - ・概要：教員数、大学院生のアシスタント数 など
 - ・授業料等：推定費用(授業料、住居費)、平均奨学金取得額
 - ・経済的支援：奨学金や学生ローン(取得者数、割合)
 - ・卒業までにかかる経費
 - ・在校生の構成：入学者数、性別、人種、年齢
 - ・入試状況：志願者数、合格者数、入学者数、必要スコア
 - ・進級率、卒業率：2年在籍率、卒業率・転出率
 - ・分野ごとの学位授与状況：学士、修士、博士等
 - ・運動部活動：所属人数
 - ・第三者評価の結果：機関別、分野別
 - ・キャンパスの安全：キャンパス、学生寮での犯罪件数
 - ・教育ローンの債務不履行率
- (6) 表示等の方法：
 - ・検索：大学名、地域、学位の種類、学校のタイプ(公立、私立)
 - ・表示：4大学を並列させて表示可能(表示情報は限定)
 - ・リンク：大学のウェブサイトや元となるデータリンク

<表示の例>

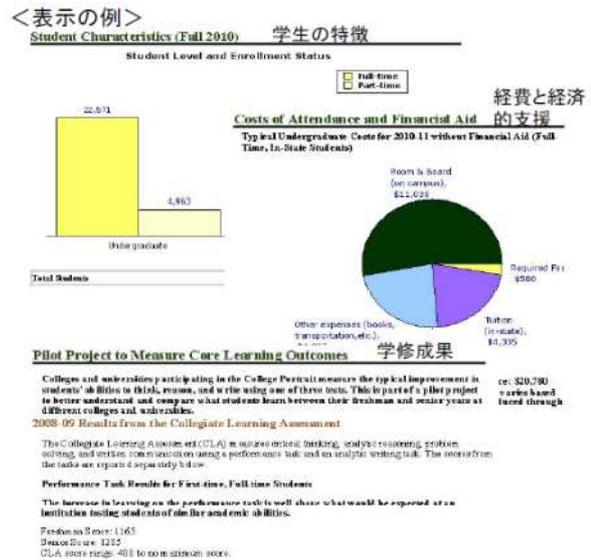


【アメリカ “College Portrait” の概要】(出所：文部科学省)

米国では、州立大学の大学団体が、共通フォーマットで大学情報を提供する”College Portrait”を構築・運営している。

- (1) 開始年：2007年
- (2) 参加大学：米国州立大学協議会、米国州立大学・土地贈与大学協議会 に加盟する297の公立大学
- (3) 運営：米国州立大学協議会、米国州立大学・土地贈与大学協議会
- (4) 項目の選定：70機関から、学長、学部長、学生関係職員、IR関係職員、教員など、80名を超える委員が参加し、8ヶ月をかけて項目を整理
- (5) 情報の入力：各大学で実施
- (6) 項目の内容：
 - 学生／家庭の情報
 - ・ 学生の特徴
 - ・ 学士課程における就学状況
 - ・ 経費と経済的支援
 - ・ キャンパスライフ
 - ・ 入学に関する状況
 - ・ 取得学位、学問分野、卒業後のプラン
 - 在学中の経験
 - 学生の学習成果

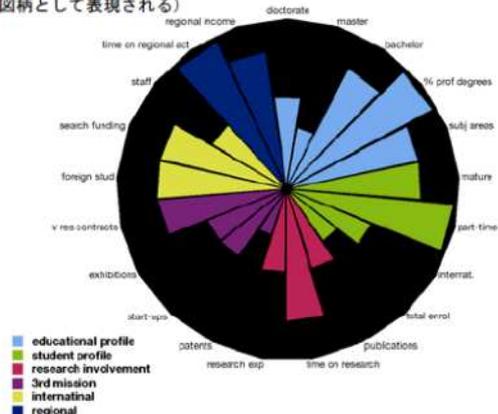
- (7) 表示の方法：各大学ごとに、グラフなどを用いて表示



【欧州の U-Map の概要】(出所：文部科学省)

- 欧州では、域内の大学の多様性を踏まえ、学生や産業界への情報提供の観点から、各大学の活動を可視化するための手法の開発が求められており、2005年から欧州委員会の支援を受けて「欧州高等教育分類」(European Classification of Higher Education Institutions)の検討が進展。
- 各大学から情報の提供を受けてデータベースを整備し、学生の構成や、どのような活動に重点を置いているかリーダーチャート等の形式で表示し、大学間の比較が可能なようにする検討が進んでいる。

【公表イメージ例】
(大学がどのような機能に重点を置いているかによって、異なる図柄として表現される)



【U-Mapで表示される情報】

- 教育**
- ・ 博士・修士・学士のどの段階に重点を置くか
 - ・ 特定分野に限定した大学か、総合大学か
 - ・ 一般的な教育か資格等と連動した教育か
 - ・ 教育費の規模の程度
- 学生**
- ・ 成人学生の占める割合の程度
 - ・ パートタイム学生の占める割合の程度
 - ・ 遠隔教育の課程の占める学生の割合の程度
 - ・ 学生数に着目した大学規模
- 研究環境**
- ・ 研究活動の活発の程度
 - ・ 博士の授与権数の程度
 - ・ 研究費の規模の程度
- 知識移転**
- ・ 新規開業企業の設置
 - ・ パテント件数
 - ・ 文化活動
 - ・ 知識移転に係る収入の規模
- 国際活動**
- ・ 海外の学位の取得を目指す学生数
 - ・ 海外からの受入学生数
 - ・ 海外への派遣学生数
 - ・ 外国人教員の占める割合
 - ・ 海外からの収入の重要度
- 地域貢献**
- ・ 卒業生のうち地域で働く者の占める割合
 - ・ 入学者のうち地元出身者の占める割合
 - ・ 地域からの収入の重要度

(2) 大学ごとのビジョン(将来像)の明確化

大学は、それぞれの建学の精神を踏まえて、自らのビジョン⁷(将来像)を明確化・具体化し、各大学のホームページや「大学ポートレート(仮称)」を通じて公表すべきである。

また、そのビジョン(将来像)の中で目指すべき「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を明らかにして、どのような学生を入学させ、どのような学位プログラムで教育し、そしていかなる基準で卒業させて社会に送り出すのか、また、教育サービスをどう改善していくのかについて、ステークホルダーに対し説明責任を果たすべきである。

(3) 内部質保証(改革サイクル[PDCA])重視へ

大学評価制度は、法令適合性等最低基準の確認等から、各大学が、それぞれ掲げたビジョン(将来像)に向けて、内部質保証、即ち改革サイクル(PDCA)を着実に進めているかを評価する方向に軸足を移していくべきである。

そのためには、基準充足を見るインプット(投入)評価から、教育の成果をエビデンスのデータをもって判断するアウトカム(結果)評価に切り替えていくことが必要である。

IR(Institutional Research)の体制整備によって教育成果に関するアウトカム(結果)の測定を可能とし、掲げるビジョン(将来像)と整合性のとれた改善が確認できるかを評価するとともに、現状の問題点を指摘し、フォローアップを行うことが重要である。

また、ビジョン(将来像)には、教育・研究のみならず、ガバナンス、財務、地域連携、産学連携、グローバル化といった項目も含まれる。大学を取り巻く

⁷ 早稲田大学が中長期計画「ワセダビジョン150」を公表している。学部学生を4万4千人から3万5千人まで減らす等具体的な数値目標を盛り込み、創立150年を迎える2032年の大学像を大胆に描いており話題になっている。

環境は多様化・複雑化しており、従来のピアレビュー⁸のみでは、適切な評価は難しいため、外部評価者として自己点検・評価の中で有識者を活用し、社会との関係を強化すべきである。

現行の大学評価制度は、法令適合性等最低基準の確認等にとどまっており、例えば認証評価の判定結果も、全体で「適合」しているか否かの一括評価が中心となっている。評価結果については、法令適合性等最低基準の確認部分と改革サイクル（P D C A）評価部分を分離し、後者については項目別の多段階評価とし、評価に濃淡をつけ大学ごとの課題が明確となる具体的な評価結果とすべきである。

（４）評価サイクルの短縮化・弾力化

認証評価機関の評価サイクルは、大学等は7年以内ごと、専門職大学院は5年以内ごととされている。また、国立大学法人評価の中期目標期間評価は6年ごととなっているが、いずれも評価サイクルの根拠、何故サイクルが異なるのかについては、必ずしも明確でない。

改革サイクル（P D C A）を着実に進めているかどうかに関し、評価の軸足を置いた場合、5年～7年といった評価サイクルは長過ぎるため、評価サイクルの短縮化を図るべきである。

また、大学によって改革の実行力に差があることを考慮すれば、一律の評価サイクルである必要はない。認証評価機関は評価結果に基づいて大学ごとに評価サイクルを弾力的に設定し、改革サイクル（P D C A）に問題がある大学への評価サイクルを短縮化することで、フォローアップを充実化させるべきである。

（５）評価の効率化・簡素化

評価の準備には膨大な時間と手間が掛かっており、大学現場の負担は大きい。情報公開の徹底を通じ、認証評価機関で確認可能な項目については、評価作業を簡略化する、また、認証評価と国立大学法人評価については、相互の評価結果を活用するなど、効率化・簡素化を図るべきである。

⁸ 大学の教員等、同じ専門領域をもつ仲間の中で、評価を行うこと。

本提言では、大学評価制度のあり方について整理を行った。その中で大学教育改革に資する大学評価制度は、情報公開と大学評価制度が、有機的に関連し補完しあう複合的なシステムの中で実現されることを述べた。

教育に関する情報のデータ収集・蓄積、及び調査・分析がなければ、改革サイクル（PDCA）の出発点となる現状認識ができない。また、仮に情報が整備されたとしても、全ての大学で徹底した情報公開が実現されなければ、各大学はベンチマークが得られず、相対化の中での自大学の座標と、改革のベクトルを明確にすることができない。

学生等のステークホルダーも、個々の価値観に照らして教育の成果を判断することができず、教育内容の質を競い合う健全な大学間競争は起こらない。「入学時の偏差値」という偏った評価基準のみが判断材料となり、「入学後の教育成果」の改善がないがしろにされる状況が続けば、グローバルな競争の中でわが国の大学の地盤沈下が進行することとなる。

健全な大学間競争を勝ち抜くためには、「正確で公正な情報公開の徹底と大学評価制度の真の活用が大学の発展に繋がる」という大学の経営陣及び教職員の意識改革こそが最も重要である。

全ての大学が、情報整備・情報公開の有する意義を高い次元で共有し、果敢に実行することで、大学評価制度における改革サイクル（PDCA）の適切な評価とフォローアップを通じたサポートが可能となる。

一方、企業においても、新卒採用活動の早期化・長期化に伴う学業への悪影響を排除するなど「教育成果の改善を産学が一体となって実現する」という意識改革と取り組みが不可欠である。

こうした一連の大学評価制度改革に加え、事前チェック・事後チェックのバランスに配慮した大学設置基準の明確化・設置審査の改善や、大学閉鎖等における学生保護の仕組みなど退出の制度設計を含めた「大学の質保証のトータルシ

STEM」が確立され、大学教育全体の質向上に向けた好循環が大きく動き出すことを期待してやまない。

【参考資料】諸外国のデータベースで発信している大学情報の内容

(出所:「大学評価・学位授与機構作成資料」に基づき作成)

College Portrait 及び College Navigator はアメリカ、Unistats はイギリス、My University はオーストラリアのデータベース。項目は各データベースの表記に基づいて分類しているため、同様の項目が、異なるジャンルに分類されている場合有。

区分	番号	項目	訳	College Portrait (米)	College Navigator (米)	Unistats (英)	My University (豪)
概要	1	provider/university name	大学名				
	2	Address	住所				
	3	University Home Page	大学のHP				
	4	Telephone (Admissions)	電話番号				
	5	Email (Admissions)	連絡用メールアドレス				
	6	Mission Statement	ミッションステートメント				
	7	programs/majors/course name/subject	プログラム/専攻				
	8	Programs/Majors Associate Bachelor Master Doctor Certificate	専攻 アソシエイト授与数 学士授与数 修士授与数 博士授与数 証明発行数				
	9	level of award	学位の種類				
	10	Institution Type	学校のタイプ				
	11	Campus Setting	キャンパスの場所				
	12	General information	概要				
	13	Awards offered	取得資格				
	14	Duration (equivalent full-time study)	修学年数				
	15	field of education	分野				
	16	Provider logo	大学のロゴ				
	17	Year of offer	対象年				
	18	Higher education provider	高等教育プロバイダー				
	19	Course level	コース・レベル				
	20	Year established	設立年度				
	21	State / Territory	州/領域				
	22	Australian campuses	オーストラリアのキャンパス				
	23	Overseas campuses	海外キャンパス				
学生	24	Total Students	総学生数				
	25	Total Students>Undergraduate / Graduate	総学生数>在学/卒業(棒グラフ表示)				
	26	Total Students>Full-time / Part-time	総学生数>全日/定時(棒グラフ表示)				
	27	Undergraduate Snapshot>Gender>Women	学部生数>女				
	28	Undergraduate Snapshot>Gender>Men	学部生数>男				
	29	Race/Ethnicity>American Indian / Alaskan Native	学部学生数>人種・民族別>アメリカ先住民/アラスカ先住民				
	30	Race/Ethnicity>Asian	学部学生数>人種・民族別>アジア				
	31	Race/Ethnicity>African American / Black	学部学生数>人種・民族別>アフリカ系/黒人				
	32	Race/Ethnicity>Hispanic	学部学生数>人種・民族別>スペイン系				
	33	Race/Ethnicity>Native Hawaiian or Other Pacific Islander	学部学生数>人種・民族別>ハワイまたは太平洋地域				
	34	Race/Ethnicity>White	学部学生数>人種・民族別>白人				
	35	Race/Ethnicity>Two or More Races	学部学生数>人種・民族別>混血				
	36	Race/Ethnicity>International	学部学生数>人種・民族別>インターナショナル				
	37	Race/Ethnicity>Race/Ethnicity Not	学部学生数>人種・民族別>不明				
	28	Where do ... undergraduates call home?>States	学部生出身地>大学のある州				
	39	Where do ... undergraduates call home?>Other US States & Territories	学部生出身地>その他の州				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	40	Where do ... undergraduates call home? > Other Countries	学部生出身地 > その他の国				
	41	Where do ... undergraduates call home? > Residency Unknown	学部生出身地 > 不明				
	42	Average Age	学部生平均年齢				
	43	Percent of Undergraduates Age 25 or Older	25歳以上の学部生割合				
	44	Students per Faculty	教員一人当たりの学生数				
	45	Undergraduate classes with fewer than 30 students	学生数 30 人以下のクラス割合				
	46	Undergraduate classes with fewer than 50 students	学生数 50 人以下のクラス割合				
	47	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Survey Response Rate	学士学位取得者の進路 > 調査回答率				
	48	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Employment	学士学位取得者の進路 > 就職				
	49	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Starting or Raising a Family	学士学位取得者の進路 > 家庭				
	50	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Military	学士学位取得者の進路 > 軍入隊				
	51	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Volunteer Service	学士学位取得者の進路 > ボランティア活動				
	52	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Undergraduate Study	学士学位取得者の進路 > 大学進学				
	53	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Graduate Study	学士学位取得者の進路 > 大学院進学				
	54	Future Plans of Bachelor's Degree Recipients > Other	学士学位取得者の進路 > その他				
	55	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 4 Years Later > Still Enrolled at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 4年後 > 他大学に在学中				
	56	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 4 Years Later > Still Enrolled	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 4年後 > 在学中				
	57	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 4 Years Later > Graduated at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 4年後 > 他大学を卒業				
	58	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 4 Years Later >	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 4年後 > 卒業				
	59	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 6 Years Later > Still Enrolled at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 6年後 > 他大学に在学中				
	60	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 6 Years Later > Still Enrolled	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 6年後 > 在学中				
	61	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 6 Years Later > Graduated at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 6年後 > 他大学を卒業				
	62	Student Success & Progress Rate > First Time Full-Time Students > 6 Years Later >	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制入学者 > 6年後 > 卒業				
	63	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 4 Years Later > Still Enrolled at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 4年後 > 他大学に在学中				
	64	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 4 Years Later > Still Enrolled	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 4年後 > 在学中				
	65	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 4 Years Later > Graduated at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 4年後 > 他大学を卒業				
	66	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 4 Years Later >	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 4年後 > 卒業				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	67	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 6 Years Later Still Enrolled at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 6年後 > 他大学に在学中				
	68	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 6 Years Later Still	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 6年後 > 在学中				
	69	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 6 Years Later Graduated at Another Institution	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 6年後 > 他大学を卒業				
	70	Student Success & Progress Rate > Full Time Transfer Students > 6 Years Later Graduated	学生の卒業・進級率(棒グラフ表示) > 全日制編入者 > 6年後 > 卒業				
	71	Retention of Freshman Class	学生在籍率 = 新入生の2年への進級率(%表示と大学ホームページへのリンク)				
	72	Student Activities and Involvement > Group Learning Experiences	学生の活動と参加 > 集団的学習				
	73	Student Activities and Involvement > Active Learning Experiences	学生の活動と参加 > 活動的学習				
	74	Student Activities and Involvement > Institutional Commitment to Student Learning and Success	学生の活動と参加 > 制度的関与				
	75	Student Activities and Involvement > Student Interaction with Campus Faculty and Staff	学生の活動と参加 > 教員、職員との交流				
	76	Student Activities and Involvement > Experiences with Diverse Groups of People and Ideas	学生の活動と参加 > 異分野の体験				
	77	Student Activities and Involvement > Student Satisfaction	学生の活動と参加 > 学生満足度				
	78	Degrees awarded > Associate's	学位授与数 > 準学士				
	79	Degrees awarded > Bachelor's	学位授与数 > 学士				
	80	Degrees awarded > Master's	学位授与数 > 修士				
	81	Degrees awarded > Doctoral	学位授与数 > 博士				
	82	Degrees awarded > Total	学位授与数 > 合計				
	83	Student Learning Outcomes	学生の学習成果(文章と大学ホームページへのリンク)				
	84	Total enrollment Undergraduate enrollment Undergraduate transfer-in enrollment Graduate enrollment	在校生数 学部入学 学部転送の登録 大学院入学				
	85	Undergraduate Attendance Status	学部参加者のステータス				
	86	Undergraduate Race/ethnicity	学部人種/民族				
	87	Undergraduate Student Age	学部学生の年齢				
	88	Undergraduate Student Residence	学部学生の居住				
	89	Graduate Attendance Status	大学院生の参加ステータス				
	90	First-to-Second Year Retention Rates Retention Rates for First-Time Students Pursuing Bachelor's Degrees	学士取得を目指す学生の保持率(最初から2年目の保持率)				
	91	Overall Graduation and Transfer-Out Rates for Students Who Began Their Studies in Fall 2004	2004年秋に勉強を始めた学生の全体的な卒業率と転出率(全体の卒業率と転出率)				
	92	Graduation Rates for Students Pursuing Bachelor's Degrees 6-Year Graduation Rate by Gender for Students Pursuing Bachelor's Degrees 6-Year Graduation Rate by Race/Ethnicity for Students Pursuing Bachelor's Degrees	学士取得を目指す学生の卒業率 学士取得を目指す学生の男女別の6年間の卒業率 学士取得を目指す学生の人種/民族別の6年間の卒業率				
	93	Student-to-faculty ratio	学生とスタッフの比率				
	94	Men / Women (Varsity Athletic Teams)	チーム別の男女別選手数				
	95	% with a job or doing further study	就職および進学率(%)				
	96	% of employed with grad job	就職率(%)				
	97	This Institution's Median Salary (6 months)	当該機関卒業者の平均給与(卒業後6か月)				
	98	All universities and colleges of higher	全大学卒業者の平均給与(卒業後6か月)				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
		education Median Salary (6 months)					
	99	All universities and colleges of higher education Median Salary (40 months)	全大学卒業者の平均給与(卒業後40か月)				
	100	Student breakdown > Registered students	コースの学生内訳 > 在籍学生数				
	101	Student breakdown > Male : Female	コースの学生内訳 > 男子 : 女子比率				
	102	Student breakdown > % Mature	コースの学生内訳 > 社会人学生の比率 (%)				
	103	Student breakdown > % Overseas	コースの学生内訳 > 留学生の比率 (%)				
	104	Student breakdown > % Full time	コースの学生内訳 > フルタイム学生の比率 (%)				
	105	Student breakdown > % Part time	コースの学生内訳 > パートタイム学生の比率				
	106	Student breakdown > % First degree	コースの学生内訳 > 第一学位としての学部(課程)履修者の比率 (%)				
	107	Student breakdown > % Other undergrad	コースの学生内訳 > その他の学部制の比率 (%)				
	108	Student breakdown > % Postgrad	コースの学生内訳 > 大学院生の比率 (%)				
	109	Degree results show what class of degree students achieved	学生の卒業時の達成成績(学位成績)の割合(円グラフ)				
	110	Progression from year one to year two > % Break from study	1年次から2年次への進級状況 > 休学率 (%)				
	111	Progression from year one to year two > % Continuing at institution	1年次から2年次への進級状況 > 進学率 (%)				
	112	Progression from year one to year two > % Gained intended award or higher	1年次から2年次への進級状況 > 予定していた資格またはそれ以上の資格の取得率 (%)				
	113	Progression from year one to year two > % Gained other award	1年次から2年次への進級状況 > 予定以外の資格の取得率 (%)				
	114	Progression from year one to year two > % Left with no award	1年次から2年次への進級状況 > 資格を取得せずに退学した比率 (%)				
	115	Top 10 profession types of those with a job, 6months after graduation	卒業後6か月の就職先の職種別割合トップ10				
	116	Job category information	職種に関する情報(円グラフ)				
	117	What were students doing 6 months after graduating	卒業後6か月の学生の状況(円グラフ)				
	118	This Institution ' s Data (6 months) > Lower Salary	当該機関のデータ(卒業後6か月) > 最低給与				
	119	This Institution ' s Data (6 months) > Median Salary	当該機関のデータ(卒業後6か月) > 平均給与				
	120	This Institution ' s Data (6 months) > Upper Salary	当該機関のデータ(卒業後6か月) > 最高給与				
	121	All universities and colleges of higher education Data (6 months) > Lower Salary	全大学の平均データ(卒業後6か月) > 最低給与				
	122	All universities and colleges of higher education Data 6 months) > Median Salary	全大学の平均データ(卒業後6か月) > 平均給与				
	123	All universities and colleges of higher education Data (6 months) > Upper Salary	全大学の平均データ(卒業後6か月) > 最高給与				
	124	All universities and colleges of higher education Data (40 months) > Lower Salary	全大学の平均データ(卒業後40か月) > 最低給与				
	125	All universities and colleges of higher education Data (40 months) > Median Salary	全大学の平均データ(卒業後40か月) > 平均給与				
	126	All universities and colleges of higher education Data (40 months) > Upper Salary	全大学の平均データ(卒業後40か月) > 最高給与				
	127	Uni details > Male : Female	大学 > 男子 : 女子比率				
	128	Uni details > % Mature	大学 > 社会人学生の比率 (%)				
	129	Uni details > % Overseas	大学 > 留学生の比率 (%)				
	130	Uni details > % Full-time	大学 > フルタイム学生の比率 (%)				
	131	Uni details > % Part-time	大学 > パートタイム学生の比率 (%)				
	132	Uni details > % First degree	大学 > 第一学位としての学部(課程)履修者の比率 (%)				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	133	Uni details > % Other undergraduate	大学 > その他学部生の比率 (%)				
	134	Uni details > % Postgraduate	大学 > 大学院生の比率 (%)				
	135	Graduates in Full Time Employment	就職率 (フルタイム)				
	136	Graduates in Full Time Student	進学率 (フルタイム)				
	137	Graduate Outcomes	卒業状況				
	138	Domestic (Student Numbers)	学生数 (自国民)				
	139	Aboriginal and Torres Strait Islander (Student Background)	原住民とトレス海峡島民 (背景)				
	140	Low socio-economic status (Student Background)	低い社会経済地位 (背景)				
	141	Non-English speaking background (Student Background)	母国語が英語以外 (背景)				
	142	Regional / remote (Student Background)	近所/遠方 (背景)				
教職員	143	Total Full-Time Instructional Faculty	大学全体の常勤教員数				
	144	Total Full-Time Instructional Faculty > % of Full-Time Instructional Faculty Who Are	大学全体の常勤教員数 > 女性教員割合				
	145	Total Full-Time Instructional Faculty > % of Full-Time Instructional Faculty Who Are Persons of Color	大学全体の常勤教員数 > 少数民族出身教員割合				
	146	Total Full-Time Instructional Faculty > % of Full-Time Instructional Faculty Who Have the Highest Academic Degree Offered in Their Field of Study	大学全体の常勤教員数 > 最高学位取得者割合				
	147	Faculty and graduate assistants by primary function, Fall 2010 (Full time / Part time) Total faculty Instructional Research and public service Total graduate assistants Instructional Research and public service	教員数と大学院生のアシスタント数 教員の合計 インストラクショナル 研究と公共サービス 大学院生アシスタントの合計 インストラクショナル 研究と公共サービス				
	148	Doctorate by research or coursework (Staff Qualifications)	研究または演習による博士号 (教職員の資格)				
	149	Masters by research or coursework (Staff Qualifications)	研究または演習による修士 (教職員の資格)				
	150	Bachelors degree (Staff Qualifications)	学士程度 (教職員の資格)				
	151	Other postgraduate qualification (Staff Qualifications)	他の大学院生の資格取得 (教職員の資格)				
	152	Other qualification (Staff Qualifications)	他の資格取得 (教職員の資格)				
	153	Above senior lecturer (Staff Job Title)	上級講師の上 (教職員の資格)				
	154	Senior lecturer (Staff Job Title)	上級講師 (教職員の資格)				
	155	Lecturer (Staff Job Title)	講師 (教職員の資格)				
	156	Below lecturer (Staff Job Title)	講師の下 (教職員の資格)				
157	Other (Staff Job Title)	他 (教職員の資格)					
	158	Full time (Staff Employment Type)	フルタイム (教職員の雇用形態)				
	159	Part time (Staff Employment Type)	パートタイム (教職員の雇用形態)				
	160	Casual (Staff Employment Type)	臨時 (教職員の雇用形態)				
施設	161	Housing	寮				
	162	Campus accommodation	キャンパス宿泊設備				
	163	First year student priority	一年生優先宿泊施設				
	164	International student priority	外国人学生優先宿泊施設				
	165	Full board	全食付きの宿泊				
	166	Self-catering	自炊の宿泊施設				
	167	Accommodation scholarships	宿泊設備奨学金				
	168	IT Facilities	IT 施設				
	169	Email accounts	電子メール・アカウント				
	170	No. of computer stations	コンピュータ・ステーションナンバー				
	171	Server space	サーバー・スペース				
	172	Technical support	テクニカル・サポート				
	173	Wireless network available	利用できる無線ネットワーク				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	174	Course Enrolment and Delivery	コース登録と配達				
	175	Online application available	利用できるオンライン・アプリケーション				
	176	Online enrolment available	利用できるオンライン登録				
	177	Online assignment submission	オンラインアサインメントサブミッション				
	178	Online lectures	オンライン読本				
	179	Online results	オンライン結果				
	180	Podcasts	ポッドキャスト				
	181	(Library Facilities and Hours)	図書施設と時間				
	182	Avail able study places(Library Facilities and Hours)	利用できる勉強場所				
	183	Cost of A4 photocopies (Library Facilities and Hours)	A4 の写真コピー代金				
	184	Total hours open per week (Library Facilities and Hours)	1 週間における全体の開館時間				
	185	Sporting Facilities	スポーツ施設				
	186	Athletics	陸上競技				
	187	Basketball	バスケットボール				
	188	Cricket	クリケット				
	189	Football	フットボール				
	190	Gym	体操				
	191	Hockey	ホッケー				
	192	Intervarsity sports	大学間のスポーツ				
	193	Netball	ネットボール				
	194	Rowing	ボートレース				
	195	Rugby	ラグビー				
	196	Sailing	ヨット				
	197	Soccer	サッカー				
	198	Squash	スカッシュ				
	199	Swimming pool	プール				
	200	Tennis	テニス				
	201	Volleyball	バレーボール				
	202	Student Support Services	学生サポート施設				
学費	203	Typical Undergraduate Costs without Financial Aid	経済的援助を除いた一般的な学費				
	204	Typical Undergraduate Costs for 2010-11 without Financial Aid (Full-Time, In-State Students) > Room & Board	経済的援助を除いた一般的な学費 > 寮費と食費				
	205	Typical Undergraduate Costs for 2010-11 without Financial Aid (Full-Time, In-State Students) > Required Fees	経済的援助を除いた一般的な学費 > 必要経費				
	206	Typical Undergraduate Costs for 2010-11 without Financial Aid (Full-Time, In-State Students) > Tuition(in-state)	経済的援助を除いた一般的な学費 > 授業料				
	207	Typical Undergraduate Costs for 2010-11 without Financial Aid (Full-Time, In-State Students) > Other expenses	経済的援助を除いた一般的な学費 > その他				
	208	Average graduate student tuition and fees for academic year Tuition Fees	平均的な大学院生の授業料と学期の授業料 授業料 手数料				
	209	Alternative Tuition Plans Tuition guarantee plan Prepaid tuition plan Tuition payment plan Other alternative tuition plan	代替授業プラン 授業料の保証プラン 前納された授業料の計画 授業料の支払計画 他の代替授業計画				
	210	Credit Accepted	受入クレジット				
	211	tuition & free	入学科及び学費				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
奨学金	212	Domestic fee-paying students (Approximate Course Fees (first year of study))	国内の授業料を支払う学生				
	213	Financial Aid> Scholarships & Grants	経済的援助 > 奨学金と助成金				
	214	Financial Aid> Annual Need-Based Loans	経済的援助 > 融資				
	215	Financial Aid> Percent of 2008-2009 Fulltime Beginning Students Receiving Each Type of Financial Aid> Any Student Financial Aid	経済的援助 > 経済的援助を受けているフルタイム学生の割合 > 何らかの学生向け経済的援助				
	216	Financial Aid> Percent of 2008-2010 Fulltime Beginning Students Receiving Each Type of Financial Aid> Any Grants or Scholarships	経済的援助 > 経済的援助を受けているフルタイム学生の割合 > 何らかの助成金または奨学金				
	217	Financial Aid> Percent of 2008-2011 Fulltime Beginning Students Receiving Each Type of Financial Aid> Federal Grants	経済的援助 > 経済的援助を受けているフルタイム学生の割合 > 連邦政府助成金				
	218	Financial Aid> Percent of 2008-2012 Fulltime Beginning Students Receiving Each Type of Financial Aid> Pell Grants	経済的援助 > 経済的援助を受けているフルタイム学生の割合 > ペル・グラント(連邦政府助成金の一種)				
	219	Financial Aid> Percent of 2008-2013 Fulltime Beginning Students Receiving Each Type of Financial Aid > State/Local Grants or Scholarships	経済的援助 > 経済的援助を受けているフルタイム学生の割合 > 州政府・地方政府の助成金または奨学金				
	220	Financial Aid> Percent of 2008-2014 Fulltime Beginning Students Receiving Each Type of Financial Aid> Student Loans	経済的援助 > 経済的援助を受けているフルタイム学生の割合 > 学生ローン				
	221	Financial Aid> Percent of 2008-2015 Fulltime Beginning Students Receiving Each Type of Financial Aid> Institution Grants or	経済的援助 > 経済的援助を受けているフルタイム学生の割合 > 当該大学の助成金または奨学金				
	222	Undergraduate Student Financial Aid, 2009-2010 Full-time Beginning Undergraduate Students の ~ の Number receiving aid Percent receiving aid Total amount of aid received Average amount of aid received Any student financial aid Grant or scholarship aid Federal grants Pell grants Other federal grants State/local government grant or scholarships Institutional grants or scholarships Student loan aid Federal student loans	学部学生財政援助、2009-2010【初級学部生(フルタイム)】の ~ の被援助数 被援助率 総援助額 平均援助額 どのような学資援助 助成金または奨学金援助 連邦政府の助成金 ペル助成金 他の連邦補助金 状態/地方政府の助成金や奨学金 制度的な補助金や奨学金 学生ローンの援助 連邦政府の学生ローン 他の学生ローン				
	223	Undergraduate Student Financial Aid, 2009-2010 All Undergraduate Students Grant or scholarship aid Pell grants Federal student loans	学部学生財政援助、2009-2010【全学部生】の ~ の被援助数 被援助率 総援助額 平均援助額 助成金または奨学金援助 ペル助成金 連邦政府の学生ローン				
224	Full-time beginning undergraduate students who were awarded grant or scholarship aid from federal, state or local governments, or the institution. Average net price	学部の助成金や連邦政府、州または地方公共団体、または機関からの奨学金の援助を受賞した初級学部生(フルタイム)、平均正味価格(過去3年分)					
225	Full-time beginning undergraduate students who were awarded Title IV aid by income Average net price	所得別のタイトルIVの援助を受賞した初級学部生(フルタイム)、平均正味価格(過去2年分)					
入試	226	Admissions	入試				
	227	Apply Online	オンラインでの申し込み				
	228	New Freshman > Applied	新入 > 受験者数(棒グラフ)				
	229	New Freshman > Admitted	新入 > 合格者数(棒グラフ)				
	230	New Freshman > Enrolled	新入 > 入学者数(棒グラフ)				
	231	Transfers > Applied	編入 > 受験者数(棒グラフ)				
	232	Transfers > Admitted	編入 > 合格者数(棒グラフ)				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	233	Transfers > Enrolled	編入 > 入学者数 (棒グラフ)				
	234	Test Scores of Enrolled New Freshmen (ACT/SAT) > Composite	新入生の成績 > 複合				
	235	Test Scores of Enrolled New Freshmen (ACT/SAT) > Math	新入生の成績 > 数学				
	236	Test Scores of Enrolled New Freshmen (ACT/SAT) > English	新入生の成績 > 英語				
	237	Test Scores of Enrolled New Freshmen (ACT/SAT) > Critical Reading	新入生の成績 > 読解				
	238	High School Background of Enrolled New Freshmen > Percent in top 25% of High School Graduating Class	新入生の高校時代の成績 > 高校同級生の 上位 25% の割合				
	239	High School Background of Enrolled New Freshmen > Percent in top 50% of High School Graduating Class	新入生の高校時代の成績 > 高校同級生の 上位 50% の割合				
	240	High School Background of Enrolled New Freshmen > Percent of new freshmen reporting High School Rank	新入生の高校時代の成績 > 高校の成績を 報告した新入生の割合				
	241	High School Background of Enrolled New Freshmen > Average High School GPA (4- point scale)	新入生の高校時代の成績 > 高校時代の平 均 GPA				
	242	High School Background of Enrolled New Freshmen > Percent of new freshmen reporting High School GPA	新入生の高校時代の成績 > 高校時代の GPA を報告した新入生の割合				
	243	Admissions Considerations (Required/Recommended) Secondary school GPA Secondary school rank Secondary school record Completion of college-preparatory program Recommendations Admission test scores (SAT/ACT) Other Test (Wonderlic, WISC-III, etc) TOEFL (Test of English as a Foreign language)	入試に関する注意事項 (必須/推奨) 中等学校 GPA 中等学校のランク 中等学校の記録 大学入学準備のプログラムの終了 推奨事項 入学試験の得点 (SAT / ACT) 他のテスト (Wonderlic, WISC- III、 など) TOEFL (外国語としての英語のテスト)				
	244	Test Scores: Fall 2010 (enrolled first-time students) SAT / ACT Students submitting scores	テストの得点 : 2010 年秋 (初入学学生) SAT と ACT の学生の提出するスコア (数 / 率)				
	245	Test Scores: Fall 2010 (enrolled first-time students) SAT Critical Reading / SAT Math / ACT Composite / ACT English / ACT Math Test Scores (25th Percentile / 75th	テストの得点 : 2010 年秋 (初入学学生) SAT クリティカルリーディング、SAT 数学、 ACT 複合、ACT 英語、ACT 数学テストスコ アの (25 パーセントイル / 75 パーセン タイル) 上下 2.5 パーセントの得点				
	246	Specialized Mission	特別な入学制限				
	247	% of Application Admitted	志望に対する受入れ比率				
	248	UCAS points achieved	入学者の UCAS ポイント分布 (119 ポイ ント以下 ~ 600 ポイント以上の間を 40 ポ イント単位で区切った一覧表)				
	249	What students did before starting the course	入学前の経歴・活動種別の比率 (円グラ フ)				
	250	Additional entry criteria	その他の入学基準				
	251	Apply through	申し込み				
	252	ATAR Cut-Off Scores (2011 - non-Queensland)	ATAR 得点区分 (2011 非クイーンズラ ンド)				
	253	OP/Rank Cut-Off Scores (2011 -	オペ/ランク得点区分 (2011 クイーン ズランド)				
	254	ATAR (non-Queensland)	ATAR (非クイーンズランド)				
	255	Overall Position/rank (Queensland only)	全体的な Position/ランク (クイーンズラ ンドだけ)				
その他	256	Campus Safety	安全性 (文章による記述と大学ホームペ ージへのリンク)				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	257	Carnegie Classification of Institutional Characteristics > Basic Type	カーネギー分類 > 基本のタイプ				
	258	Carnegie Classification of Institutional Characteristics > Size and Setting	カーネギー分類 > 規模と形態				
	259	Carnegie Classification of Institutional Characteristics > Enrollment Profile	カーネギー分類 > 在籍				
	260	Carnegie Classification of Institutional Characteristics > Undergraduate Profile	カーネギー分類 > 学部				
	261	Carnegie Classification of Institutional Characteristics > Undergraduate Instructional Program	カーネギー分類 > 学部教育プログラム				
	262	Carnegie Classification of Institutional Characteristics > Graduate Instructional Program	カーネギー分類 > 大学院教育プログラム				
	263	Carnegie Classification of Institutional Characteristics > Student Experiences	カーネギー分類 > 学生経験				
	264	Areas of Study with the largest number of bachelor's degrees awarded in 2010-11	主な学位授与分野(各大学の上位5分野)				
	265	Links to degree programs	各大学の学位プログラムページへのリンク				
	266	Pilot Project to Measure Core Learning Outcomes	学習成果を判断するための試験的な取り組み				
	267	Special Learning Opportunities	特別な学習機会				
	268	Student Services	学生サービス				
	269	Religious Affiliation	宗教				
	270	Undergraduate students enrolled who are formally registered with office of disability services	正式に障害者サービスのオフィスで登録されている学部学生の在籍				
	271	Institutional Accreditation Agency Periods of Accreditation Status	公的な認証 認証機関 認定日 状況				
	272	Specialized Accreditation Agency / Program Periods of Accreditation Status	専門的な認証 認証機関 / プログラム 認定日 状況				
	273	Arrests - On-Campus Illegal weapons possession Drug law violations Liquor law violations	キャンパスでの逮捕 違法な武器の所持 薬物法違反 酒類販売法違反				
	274	Arrests - On-Campus Residence Halls Illegal weapons possession Drug law violations Liquor law violations	キャンパス内の寮での逮捕 違法な武器の所持 薬物法違反 酒類販売法違反				
	275	Criminal Offenses - On-Campus Murder/Non-negligent manslaughter Negligent manslaughter Sex offenses - Forcible Sex offenses - Non-forcible (incest and statutory rape only) Robbery Aggravated assault Burglary Motor vehicle theft Arson	キャンパスでの犯罪 殺人/非過失致死罪 過失致死罪 性犯罪 - 強制 性犯罪 - 非強制(近親相姦と法定強姦のみ) 強盗 加重暴行 強盗 自動車盗難 放火				
	276	Criminal Offenses - On-Campus Residence Halls Murder/Non-negligent manslaughter Negligent manslaughter Sex offenses - Forcible Sex offenses - Non-forcible (incest and statutory rape only)	キャンパス内の寮での犯罪 殺人/非過失致死罪 過失致死罪 性犯罪 - 強制 性犯罪 - 非強制(近親相姦と法定強姦のみ)				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
		Robbery Aggravated assault Burglary Motor vehicle theft Arson	強盗 加重暴行 強盗 自動車盗難 放火				
	277	Default rate Number in default Number in repayment	債務不履行率 債務不履行者数 返済者数				
	278	Aid Programs	援助プログラム				
	279	Varsity Athletic Teams	スポーツクラブチーム				
	280	extended learning opportunities	その他の教育機関				
	281	Religious Affiliation	宗派				
	282	Employability Statement	エンプロイアビリティ・ステートメント (各大学のテキストデータおよび関連ページへのリンク)				
	283	National Student Survey>Overall, I am satisfied with the quality of the course.	学生満足度調査>「総合的にみて、コースの質に満足している」に対し、「そう思う」割合(%)				
	284	National Student Survey>Staff are good at explaining things.	学生満足度調査>「教職員は丁寧に説明してくれる」に対し、「そう思う」割合(%)				
	285	National Student Survey>Staff have made the subject interesting.	学生満足度調査>「教員は担当科目への関心を高めようと努力している」に対し、「そう思う」割合(%)				
	286	National Student Survey > Staff are enthusiastic about what they are teaching.	学生満足度調査>「教員は教育への熱意がある」				
	287	National Student Survey>The course is intellectually stimulating.	学生満足度調査>「コースは知的に刺激的である」				
	288	National Student Survey>The criteria used in marking have been clear in advance.	学生満足度調査>「評価基準は採点が明確になるように用いられている」に対し、「そう思う」割合(%)				
	289	National Student Survey > Assessment arrangements and marking have been fair.	学生満足度調査>「評定の順位づけや採点は公平である」に対し、「そう思う」割合(%)				
	290	National Student Survey>Feedback on my work has been prompt.	学生満足度調査>「自分が提出した課題へのフィードバックが迅速である」に対し、「そう思う」割合(%)				
	291	National Student Survey > I have received detailed comments on my work.	学生満足度調査>「提出した課題に対し詳細なコメントをしてくれた」に対し、「そう思う」割合(%)				
	292	National Student Survey>Feedback on my work has helped me clarify things I did not understand.	学生満足度調査>「自分が提出した課題へのフィードバックは、分からなかったことを理解できるようにしてくれる」に対し、「そう思う」割合(%)				
	293	National Student Survey > I have received sufficient advice and support with my studies	学生満足度調査>「学習について十分な助言と支援を受けた」に対し、「そう思う」割合(%)				
	294	National Student Survey>I have been able to contact staff when I needed to.	学生満足度調査>「必要なとき、教職員に問い合わせることができた」に対し、「そう思う」割合(%)				
	295	National Student Survey > Good advice was available when I needed to make study choices	学生満足度調査>「専攻を選ぶ際、アドバイスが役に立った」に対し、「そう思う」割合(%)				
	296	National Student Survey>The timetable works efficiently as far as my activities are concerned.	学生満足度調査>「自分の活動に関しては、時間割は能率的だった」に対し、「そう思う」割合(%)				
	297	National Student Survey>Any changes in the course or teaching have been communicated effectively.	学生満足度調査>「コースや教育に関する変更点の周知は効果的に行われていた」に対し、「そう思う」割合(%)				
	298	National Student Survey>The course is well organised and is running smoothly.	学生満足度調査>「コースは適切に構成されており、スムーズに運営されていた」に対し、「そう思う」割合(%)				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	299	National Student Survey>The library resources and services are good enough for my needs.	学生満足度調査>「図書館の蔵書・設備はニーズを十分に満たしている」に対し、「そう思う」割合(%)				
	300	National Student Survey>I have been able to access general IT resources when I needed to.	学生満足度調査>「必要なとき、一般的なIT設備を利用することができた」に対し、「そう思う」割合(%)				
	301	National Student Survey>I have been able to access specialised equipment, facilities or room when I needed to.	学生満足度調査>「必要なとき、特殊な備品・設備・施設を使用できた」に対し、「そう思う」割合(%)				
	302	National Student Survey>The course has helped me present myself with confidence.	学生満足度調査>「コースは私に自信をもたらせる助けになった」に対し、「そう思う」割合(%)				
	303	National Student Survey>My communication skills have improved.	学生満足度調査>「コミュニケーションスキルが向上した」に対し、「そう思う」割合(%)				
	304	National Student Survey>As a result of the course, I feel confident in tackling unfamiliar problems.	学生満足度調査>「コースを修了した結果として、未知の問題にも取り組める自信を感じる」に対し、「そう思う」割合(%)				
	305	Quality Assurance Agency for Higher Education Reports	QAA ウェブサイトの当該機関のページへのリンク				
	306	Public Transport	公共交通機関				
	307	Bus	バス				
	308	Ferry	フェリー				
	309	Tram	路面電車				
	310	Train	電車				
	311	Bike paths	自転車経路				
	312	Other	他				
	313	Parking	駐車場				
	314	Free parking during business hours	営業時間内無料駐車場				
	315	Paid parking	有料駐車場				
	316	Retail & Entertainment	売店&娯楽				
	317	Art gallery	アート・ギャラリー				
	318	ATM	ATM				
	319	Banking	銀行業務				
	320	Bar/pub	バー/パブ				
	321	Bookshop	書店				
	322	Chemist	薬局				
	323	Cinema	映画				
	324	Dentist	歯科医				
	325	Hairdresser	美容師				
	326	Laundromat	コインランドリー				
	327	Medical	健康診断				
	328	Newsagency	通信社				
	329	Optometrist	検眼士				
	330	Post office	郵便局				
	331	Radio station	ラジオ局				
	332	Religious facilities	宗教的な施設				
	333	Student newspaper	学生新聞				
	334	Student radio	学生ラジオ				
	335	Student theatre	学生劇場				
	336	Supermarket	スーパーマーケット				
	337	Travel agent	旅行代理店				
	338	Aboriginal and Torres Strait Islander support	原住民とトレス海峡島民支持				
	339	Academic counselling	アカデミックなカウンセリング				
	340	Career services	職業サービス				
	341	Chaplaincy	礼拝堂				
	342	Childcare	託児所				
	343	Disability support	障害支持				
	344	Employment assistance	仕事援助				

区分	番号	項目	訳	College Portra- it (米)	College Navig- ator (米)	Unista- ts (英)	My Univer- sity (豪)
	345	English language programs	英語プログラム				
	346	Financial services	投資情報サービス				
	347	Housing assistance (off campus)	住宅援助(キャンパス外)				
	348	Income support services	所得補助サービス				
	349	International student support	外国人学生支持				
	350	Legal assistance	法的援助				
	351	Personal counselling	個人相談				
	352	Security services	セキュリティ・サービス				
	353	Student rights counselling	助言している学生の権利				
	354	Welfare counselling	福祉カウンセリング				
	355	Non-Sporting Clubs	非スポーツクラブ				
	356	ACUOztag	ACUO タグフットボール				
	357	Alegria	アレグリーア				
	358	Poker Club	ポーカー・クラブ				
	359	The Bearettes	Bearettes				
	360	Other Services	他のサービス				
	361	Laboratories	研究所				
	362	Nursing Labs	看護研究室				
	363	Physiotherapy Labs	物理療法研究室				
	364	Other Field-Specific Facilities	他のフィールドに特有の施設				
	365	Student Survey Results and Subject Area Statistics	学生調査結果と従属する地域統計				

2012年度 教育問題委員会

(敬称略)

委員長

北山 禎 介 (三井住友銀行 取締役会長)

副委員長

天羽 稔 (デュポン 取締役会長)

江頭 敏 明 (三井住友海上火災保険 取締役会長)

遠藤 勝 裕 (日本学生支援機構 理事長)

高祖 敏 明 (上智学院 理事長)

鈴木 雅 子 (ベネフィット・ワン 取締役副社長)

田久保 善 彦 (グロービス経営大学院大学 常務理事)

日比谷 武 (富士ゼロックス 常勤監査役)

益戸 正 樹 (パークレイズ証券 顧問)

委員

青木 寧 (花王 執行役員)

青松 英 男 (DRCキャピタル 代表取締役)

麻生 修 司 (富士ゼロックス 執行役員)

有馬 利 男 (富士ゼロックス 相談役特別顧問)

糸魚川 順 (立教学院 理事長)

伊藤 守 (毎日コムネット 取締役社長)

乾 民 治 (イヌイ倉庫 取締役会長)

岩田 喜美枝 (資生堂 顧問)

薄井 充 裕 (日本政策投資銀行 設備投資研究所長)

内田 士 郎 (プライスウォーターハウスクーパース 取締役会長)

浦田 晴 之 (オリックス 取締役兼代表執行役副社長 グループCFO)

大賀 昭 雄 (東通産業 取締役社長)

奥村真介	(アデコ 取締役社長)
織田浩義	(日本マイクロソフト 執行役)
小野俊彦	(日新製鋼 相談役)
笠井伸啓	(ローデ・シュワルツ・ジャパン 取締役社長)
片岡啓治	(明電舎 取締役会長)
加藤治彦	(証券保管振替機構 取締役社長)
岸上茂	(松本丞治法律事務所 弁護士)
岸田徹	(ネットラーニング 代表取締役(CEO))
木俣佳丈	
木村廣道	(ライフサイエンスマネジメント 取締役社長)
行天豊雄	(三菱東京UFJ銀行 特別顧問)
喜吉憲	(ピーシーピーディー・インベストメント・リミテッド 顧問)
久慈竜也	(久慈設計 取締役社長)
倉田進	(日本AMS 取締役社長)
高坂節三	(日本漢字能力検定協会 理事長)
古賀信行	(野村證券 取締役会長)
小林栄三	(伊藤忠商事 取締役会長)
小林英三	(日本証券金融 取締役社長)
小林一俊	(コーセー 取締役社長)
小林恵智	(中日科学技術発展中心 理事長)
雑賀大介	(三井物産 取締役専務執行役員)
坂下智保	(富士ソフト 取締役社長執行役員)
佐川八重子	(桜ゴルフ 代表取締役)
笹山幸嗣	(メザニン 代表取締役)
重木昭信	(日本電子計算 取締役社長)
品川泰一	(ユーキャン 取締役社長)
篠田紘明	

柴田 励司	(Indigo Blue 取締役社長)
住谷 栄之資	(KCJ GROUP 取締役社長兼CEO)
關 昭太郎	(21世紀大学経営協会 副理事長)
反町 勝夫	(東京リーガルマインド 取締役会長)
給田 英哉	(ARK HILLS CLUB 専務理事)
高木 邦格	(国際医療福祉大学 理事長)
高橋 衛	(HAUTPONT研究所 代表)
竹中 誉	(エル・ビー・エス 取締役会長)
多田 雅之	(アルファパーチェス 取締役社長兼CEO)
田中 廣	(タナチョー 取締役社長)
谷家 衛	(あすかアセットマネジメント 取締役社長)
近浪 弘武	(日本コンベンションサービス 取締役社長)
塚本 桓世	(東京理科大学 会長)
津川 清	(OFFICE TSUGAWA 代表)
露木 繁夫	(第一生命保険 取締役専務執行役員)
土居 征夫	(城西大学 イノベーションセンター所長)
同前 雅弘	(大和証券グループ本社 顧問)
鳥越 慎二	(アドバンテッジリスクマネジメント 取締役社長)
長瀬 朋彦	(イマジカ・ロボット ホールディングス 取締役社長)
永田 良一	(新日本科学 取締役社長)
長久 厚	(ラクオリア創薬 ファウンダー&イノベーション・アドバイザー)
中村 明雄	(損保ジャパン総合研究所 理事長)
中村 紀子	(ポピンズ 代表取締役CEO)
西川 知雄	(西川 シドリー・オースティン法律事務所・外国法共同事業 代表弁護士)
野田 馨	(サンワコムシスエンジニアリング 相談役)
信井 文夫	(映像新聞社 取締役会長)

馬 田 一	(JFEホールディングス 取締役社長)
波多野 敬 雄	(学習院 院長)
林 明 夫	(開倫塾 取締役社長)
林 達 夫	(アークデザイン 取締役社長)
原 田 泳 幸	(日本マクドナルドホールディングス 取締役会長兼社長兼CEO)
東 光 伸	(セガ 上席執行役員)
日 隈 寛 和	(日本アルテラ 取締役社長)
平 井 幹 久	(イデラキャピタルマネジメント 取締役会長)
平 尾 光 司	(信金中央金庫 地域・中小企業研究所 所長)
ハリー・A・ヒル	(オークローンマーケティング 取締役社長)
廣 岡 哲 也	(フージャースコーポレーション 代表取締役)
廣 瀬 修	(サーベラス ジャパン アドバイザリー ボード ヴァイス チェアマン)
廣 瀬 駒 雄	(オーエム通商アクト 取締役社長)
グレン・S・フクシマ	(Center for American Progress シニア・フェロー)
古 川 令 治	(北京大学東北アジア区域一体化研究センター 副理事長兼職教授)
堀 内 勉	(森ビル 取締役専務執行役員)
マシュー・マグワイア	(メリルリンチ日本証券 取締役副社長兼COO)
増 田 健 一	(アンダーソン・毛利・友常法律事務所 パートナー)
増 田 宏 一	(日本公認会計士協会 相談役)
松 居 克 彦	(松居アソシエイツ 代表)
松 川 昌 義	(日本生産性本部 理事長)
松 下 功 夫	(JXホールディングス 取締役社長)
松 村 謙 三	(プリヴェ企業再生グループ 取締役会長)
美 安 達 子	(電脳 取締役社長)
向 井 眞 一	(内田洋行 相談役)
茂 木 賢三郎	(キックマン 特別顧問)

森 健	(ローランド・ベルガー 取締役日本代表)
矢崎 和 広	(諏訪貨物自動車 取締役会長)
八杉 茂 樹	(大和不動産鑑定 取締役社長)
山岡 建 夫	(J U K I 最高顧問)
山 極 清 子	(w i w i w 社長執行役員)
山 中 祥 弘	(ハリウッド大学院大学 理事長)
山 本 公 哉	(朝日ネット 取締役社長)
山 本 謙 三	(N T T データ経営研究所 取締役会長)
四 方 ゆかり	(グラクソ・スミスクライン 取締役)
湧 永 寛 仁	(湧永製薬 取締役社長)
和 田 裕	(日本イノベーション 取締役社長)

以上111名

事務局

藤 卷 正 志	(経済同友会 執行役)
篠 塚 肇	(経済同友会 政策調査第2部 部長)
井 上 克 也	(経済同友会 政策調査第2部 マネジャー)